

ドレヘム文書と家畜集配組織

－奈良大学文化財学科考古学の授業から－

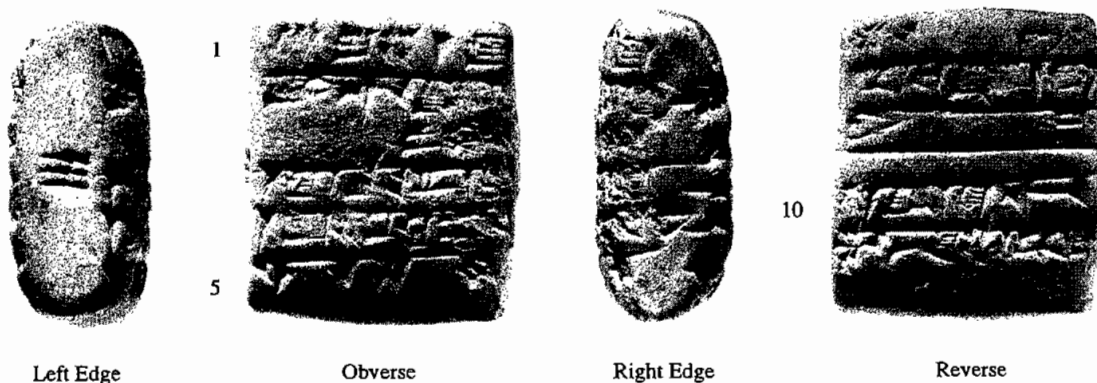
酒 井 龍 一

はじめに

プズリシュダガンのシュメール語粘土板（ドレヘム）文書は、ウル第三王朝の解明に重要な史料である。例えば、楔形文字史料による古代メソポタミア研究を総括した『歴史学の現代 古代オリエント』（前田他2000）は、「プズリシュダガンはニップル近郊にあって、周辺諸国やシュメール・アッカド地方の諸都市から貢納として運ばれてきた家畜を管理するウル王家直轄地であった。そうした特色から、ウル第三王朝が国内と周辺地域に対してどのような支配体制で臨んだかを研究するのに好都合な文書」（p.35）と評価する。本稿では、先学の研究を紹介しつつ、ウル第三王朝・ドレヘム文書・集配組織の学習に努める。

ドレヘム文書

同文書は、粘土板の表・裏・側面に、シュメール語の楔形文字で記される。第1図（Hilgert 2003）は、アマルシン王5年6月15日、ルバラサガ他2名の持参（穀類飼育羊3頭と子羊3頭の計6頭）を、アバサガが受理したことを記したもの。記載場所の略号は、O.表面・R.裏面・L.E.左側面・R.E.右側面・T.E.上側面・B.E.下側面。各粘土板に対し、写真・手写・翻字・転写・翻訳の作業がされる。多くに横欄が設けられ、欄内が複行の場合、翻字文では「/」で改行を示す。空白欄は「-」。文書は、「品目」・「業務」・「担当」・「付記」・「日付」で構成。本稿では、欠字・補字箇所を示す「 」は省略する。翻字は各報告者に従うので、本稿では混用（mu-túm=mu-DUなど）する結果となる。引用文中の網線は筆者による。



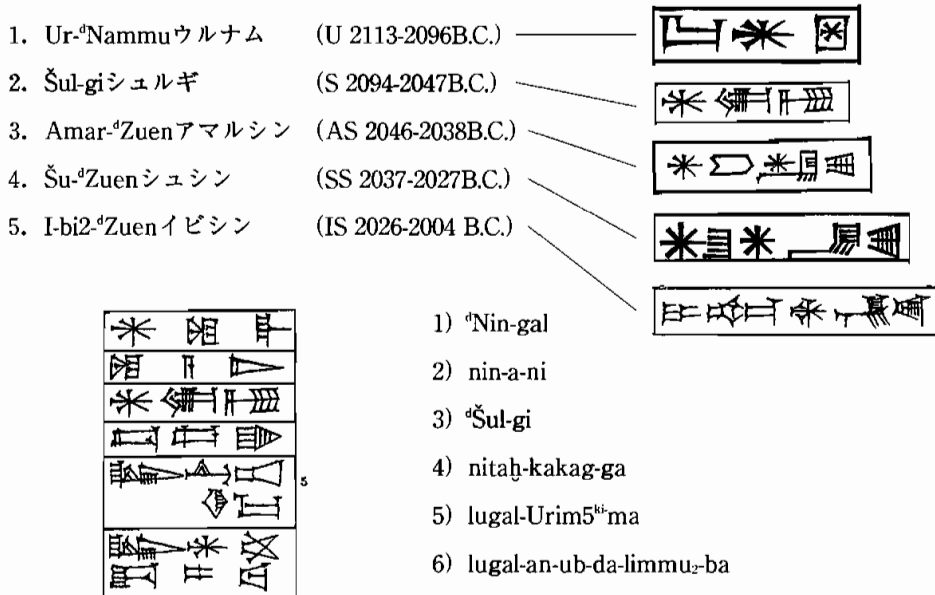
第1図 ドレヘム文書例（Hilgert 2003：90A3254）

ウル第三王朝 (B.C.2112-2004)

1) ティグリス・ユーフラテス河の下流域、シュメールとアッカドの地を核とし構成された王朝である。中核地域に、首都ウル・聖都ニップル・古都ウルク・ラガッシュ・ウンマ・シュルパック・アダブ・その他の都市がある。全体は約20の地域構成。時代的には、アッカド王朝とイシナーラルサ王朝間の約百年だが、「新シュメール人のルネッサンス」と称され、存在感の大きい時代である (Kuhrt 1995・前田1996・Mieroop 2004)。

2) 王碑文や暦年名は、次のような「歴代5王」の存在を示す (Leick 1999・Hayes 2000)。最盛期のシュルギ王の時代には、東はビプロス・エブラ、西はスーサ・アンシャンまで勢力が及んだという。第2図下は、「強き男 ウルの王 四周世界の王」(4～6欄)と記されたシュルギ王の碑文例である。栄枯盛衰。ウル第三王朝の結末は、悲劇の王イビシンにまつわる『ウルの滅亡哀歌』(杉・五味1978)が物語る。

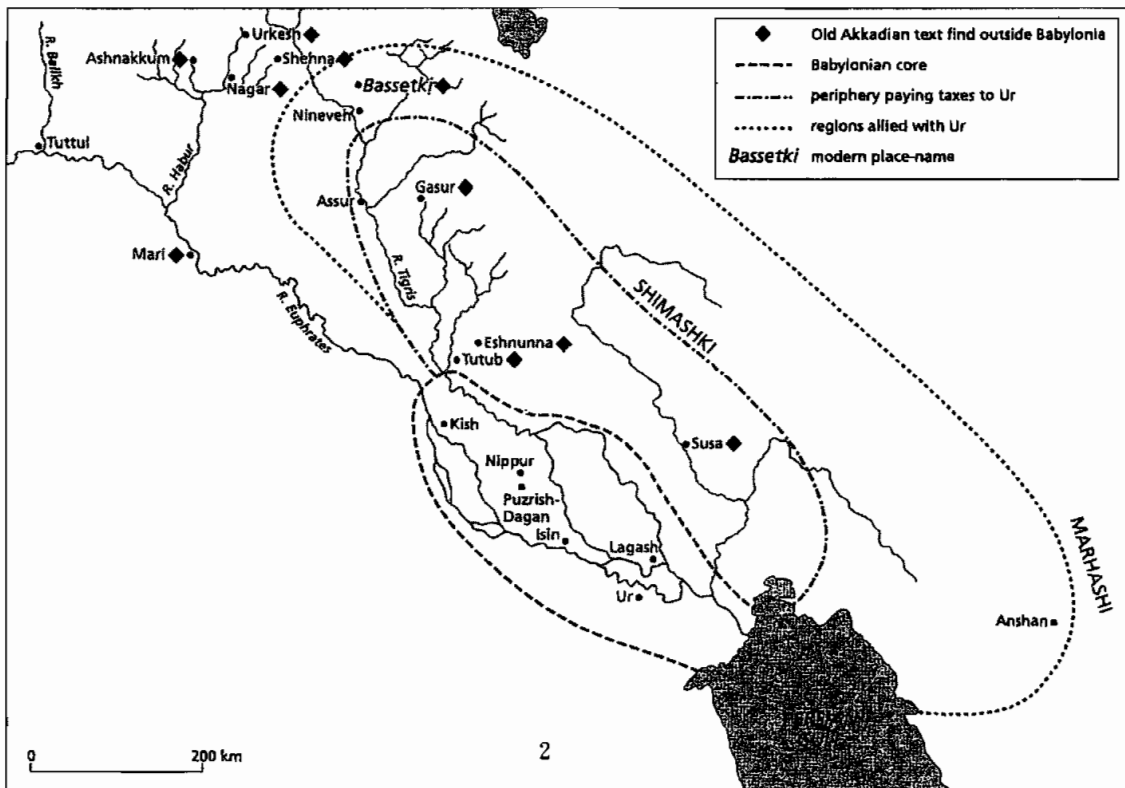
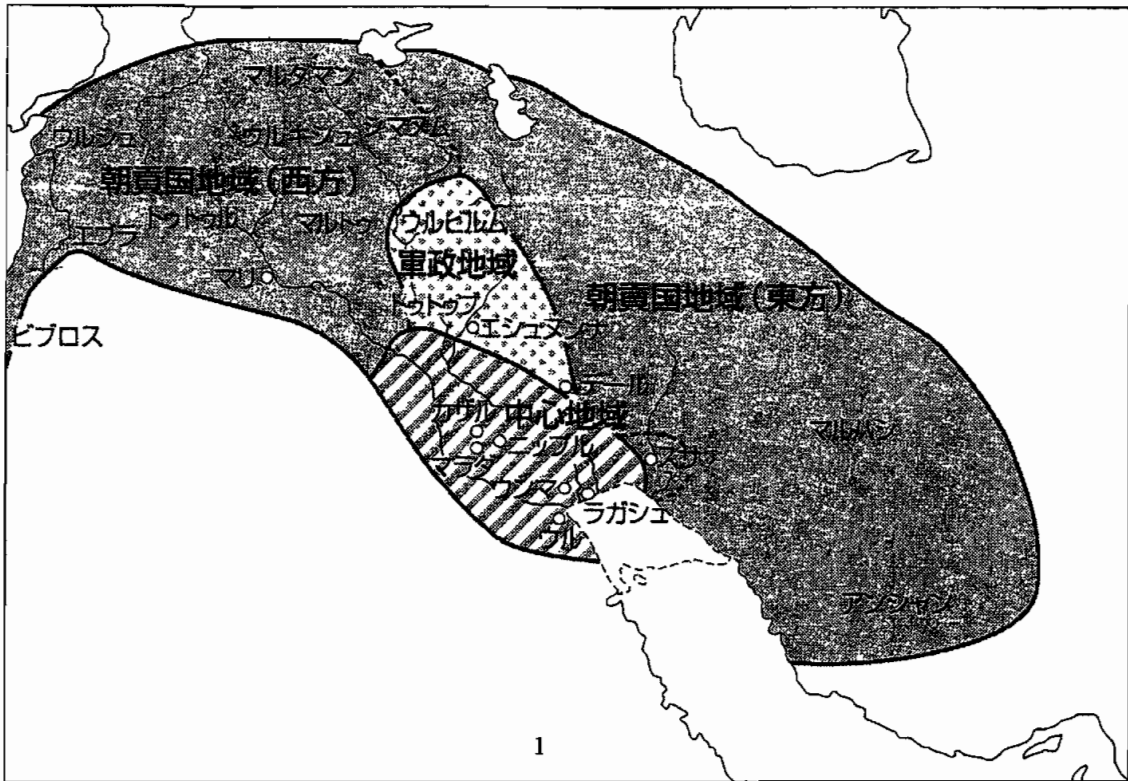
本稿では、この「シュルギ王の後半期 (Š26～48年)の文書」に焦点を当てる。



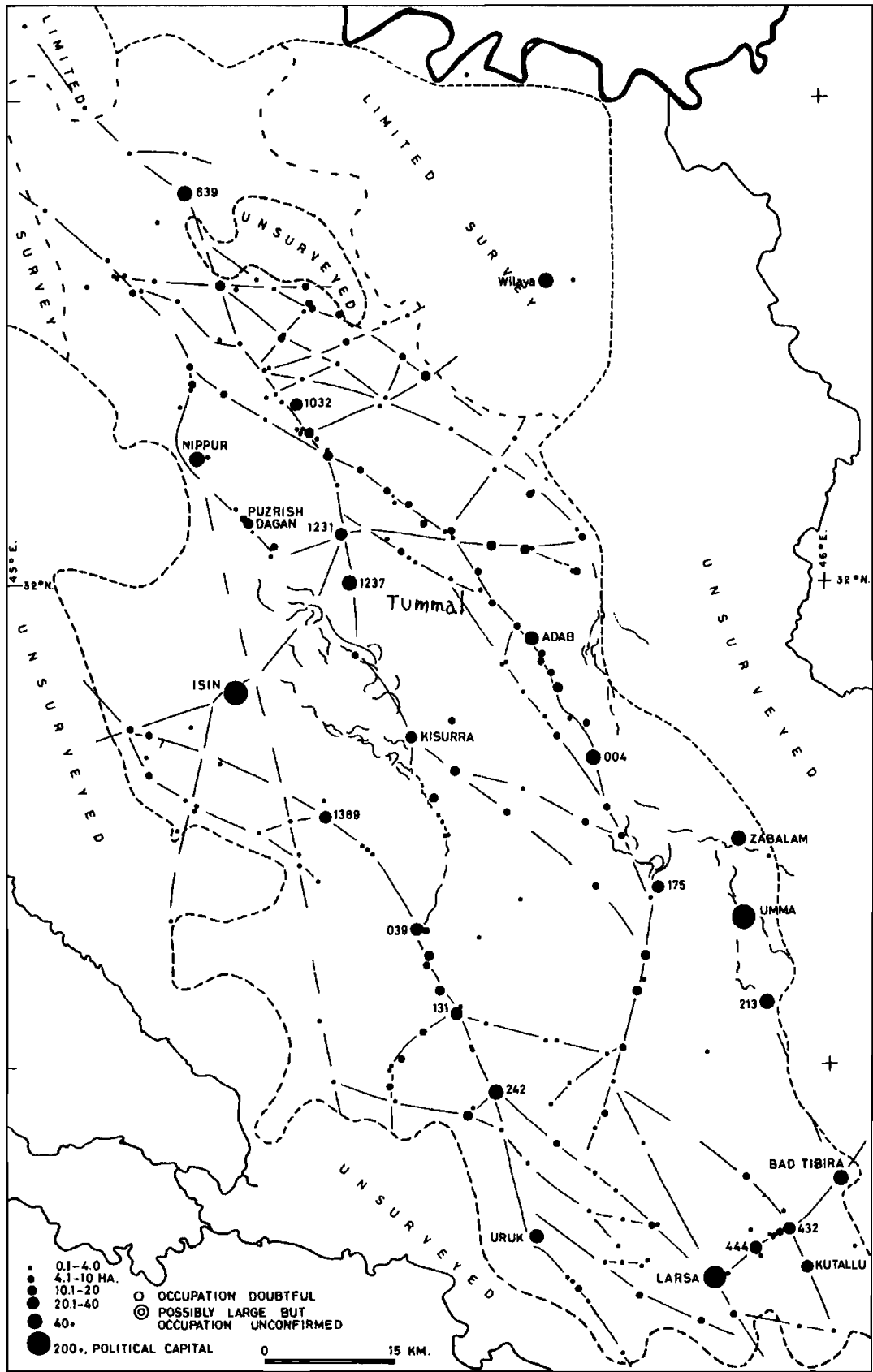
第2図 5人の王名とシュルギ王碑文 (Hayes 2000)

3) 「王朝の支配枠組」二案を紹介する。第3図1は、前田徹による最新モデル (1990・2003)。ウルやニップルなどが所在する「中心地域 (ウル・ニップル・ウルク以外の都市にバル義務)」、ティグリス河東岸の「軍政地域 (駐屯軍団にグナ・マダ義務)」、遠方の独立・半独立都市が散在する東方・西方の「朝貢国地域 (大使派遣や定期貢納、王女の降嫁など)」に区分する。第3図2は、P. Steinkellerによる先駆的モデル (1987)。支配地域を「中心地域 (バル税)」・「周辺地域 (グナ・マダ税)」・「従属国地域」に区分する。

時代と共に支配枠組は大きく変化したが、両者は第三王朝の可視的理解に極めて有効である。かかる枠組の中、「シュメール世界の「神々の王」エンリルの神殿エクルがあったニップルの町に近い小規模集落プズリシュダガンには、一種の巨大な倉庫、大規模な家畜飼育場があって、そこには国中の都市や村落の支配者から、一種の「ローテーション」に従って、運び込まれた物資が満ち溢れていた」(松島2003:p.131)。



第3図 1 ウル第三王朝の支配領域 (前田2003)
 2 The Old Akkadian and Ur III states
 (by Steinkeller, Mieroop 2003)



第4図 Ur III - Isin-Larsa period settlement pattern (Adams 1981)

4) プズリシュダガンは、首都ウルから聖都ニップルを結ぶ幹線上、ニップルの南東 8 km に位置する。西ユーフラテス河の航路では、ニップルとトゥンマル間にある (吉川1990)。

首都ウル - エンネギーラルサーウルク - シュルパク - トゥンマル

- プズリシュダガン (集配施設) - 聖都ニップル

5) R. Adams (1981) らは、1956年以來、ウル第三王朝を含む各時代の遺跡分布とセトルメント・パターン (酒井1990) を追求してきた (第4図)。同王朝時代の諸遺跡は、ディヤラ平野部の1-466 (Adams and Nissen1972)、501-1639 (Adams1981)、ウル・エリドゥー地域の1-190 (Wright1980) に分けて収録。プズリシュダガン遺跡 (1001) の現状は、2メートル程度の低い丘陵状で、ジグラットらしき高まりもある。なお、これまで正式な学術発掘は実施されていないようである。

Tell Drehem, ancient Puzrish- (or Sellush-) Dagan. 560 NW×275×8.5, reaching this ht. only in a small eminence suggestive of a ziggurat near the SE end of site. Most of the area is less than 2 m in elevation. Surface very saline and spongy, sharply limiting surface collections, but extended search concentrating on spoil banks around old excavations or pits produced an adequate sample. Entire collection was consistent with an occupation limited to the Ur III- Larsa period. (Adams 1981; p.269)

粘土板文書の入手状況

今日、数万点のドレヘム文書粘土板が世界各地にある。本稿では次の「3コレクション」を引用・参照する。いずれも、遺跡での出土状況は不明。すべて「購入」である。

1. Oriental Institute of the University of Chicago (Hilgert1998:p.1)

The 499 documents published herein were not recovered during regular archaeological excavations but became part of the Asiatic Collection of the Oriental Institute Museum through purchases made from antiquities dealers and private collectors between 1919 and 1952. 文書例は「-OIM:A-」と表記

2. 平山コレクション (Gomi, Hirose and Hirose1990:p.8) 312 texts

一九八三年の早春、海外の友人から一通の手紙が届きました。「埃まみれの木箱に詰まった約四百枚の粘土板文書があるが、希望するなら譲ってもよい」という内容のものでした (広瀬一隆)。

文書例は「広瀬-」と表記

3. Classical and Cultural Museum of the University of Illinois (Kang1972:p.v)

In Bagdad in 1912, Banks had acquired about 11,000 tablets. This was part of large hoard of tablets, estimated at 30,000, uncovered by Arabs who were digging clandestinely in the mounds of Jokha, the ancient Umma, and at a small mound at Drehem village, the ancient site of Sillush-Dagan (or Puzrish-Dagan) which was near the Sumerian city of Nippur 文書例は「-SETDA-」と表記

集配組織の建設

ウル第三王朝の第二代シュルギは恐らく治世八年にトゥンマルを再興し、治世39年にPuzurish-Daganの 家畜管理事務所 を建設したと考えられるが、・・・。(吉川1990:p.514)

通例、家畜集配施設の建設は「Š39年」とみられている(吉川1990・他)。ただし、今日まで正式な学術発掘はなく、建設年を明記する碑文の発見はない。従って、この見解は未確定である。参考となるのは、「プズリッシュダガンの家が建設された年(Š39年)」(第5図)と記す特異な「3年連続の暦年名」である。同組織の研究を国際的にリードする前田は、「シュルギ第39年の年名はプズリッシュダガンにおける家畜貢納制度の確立を自賛する意味をも有するのであろう」(1990a:p.436)と評価している。

Š39年 mu é Puzur_r iš^dDa-gan ba-dù (広瀬15)

Š40年 mu us-sa é-Puzur_riš^dDa-gan^{ki} ba-du₃-a (43 OIM:A4118)

Š41年 mu us-sa é-Puzur_riš^dDa-gan^{ki} ba-du₃-a mu us-sa-bi (63 OIM:A4580)

【註】 mu = 年、mu us-sa ~ ~ の翌年、

mu us-sa ~ ~ ~ mu us-sa-a-bi = ~ の翌年のその翌年

年名は、mu é-puzur-iš^dda-gan-na ba-dù。éは“神殿”ではなく、“管理事務所”と考えられる(吉川1990:p.519)。

Š39年 mu Šhul-gi lugal Ur₂ ^{ki}-ma-ke₄ lugal an ub-da 4 -ba-ke₄

e₂-Puzur_riš^dDa-gan^{ki} e₂-Šhul-gi-ra mu-du₃ (BM23420・28018)

"Year Shulgi the king of Ur, king of the four quarters, built the temple of Puzirish-Dagan the temple of Shulgi." (Sigrist and Damerow 2000)

第5図 (広瀬 15 Gomi, Hirose and Hirose 1990)

O.1) 1 uz-tur

2) 6 tu-gur₄ ^{mušen}

3) iti-ta u_r-2 ba-ra- / zal

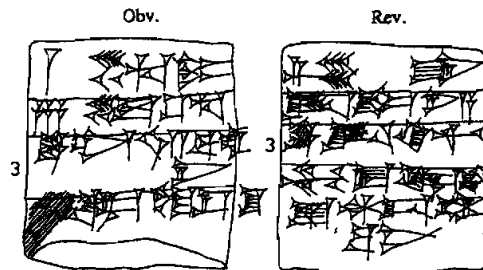
4) ni-kú Nin-gá šè

R.5) zi-ga

6) Á-pil-lí-a

7) iti- á-ki-ti

8) mu é Puzur_r / iš^dDa-gan / ba-dù プズリッシュダガンの「家」が建てられた年



ところで、3年連続の暦年名中の「e₂」が、「家」・「建物」・「施設」・「神殿」などのいずれを指すかは即断できない。「Š39年」を指す別の暦年名「BM23420・28018」(上記)は、「施設」でなく「temple・神殿」と英訳されている。対して、シュメール語の権威・吉川守(1990)は、明らかに「家畜管理事務所」(施設)と考えている。この解

決は今後の課題である。

ドレヘム文書の時代的動向

先に紹介した吉川・前田の見解を重ねると、Š39年に「家畜集配施設の建設」か「同集配組織の確立」があったことになる。ここで、更に、それが集配施設・組織の「新設」なのか、従来から存在した集配施設・組織の「増設・再編成」なのかという問題が生じる。

ドレヘム文書の時代的動向に関して、前田（1990a）は、「妃シュルギシムティのための持参（mu-túm）を除けば、持参家畜文書はシュルギ40年からドレヘム文書に現れ、以後急速に増加し、年、月だけでなく、日までも明記した日々の記録や、そうした日々の記録を、月単位、年単位で集計した粘土板文書も多数残されるようになる」（pp.435-436）と指摘している。問題は、Š39年以降に登場する、上記の「持参家畜文書」とは別に、Š39年以前からの「^dSul-gi-sí-mi-ti文書」と「lugal文書」が存在することである。

Š39年⇒新設か増設か？

家畜集配施設（組織）

ドレヘム文書

^dSul-gi-sí-mi-ti文書の問題点

すべての粘土板の入手が、学術発掘でなく、購入という実情は、その一部を疑問視する声になる（五味1975）。例えば、^dSul-gi-sí-mi-ti文書を、それから排除すべしという見解がある。Sollbergerの声を五味（1977p.83）から引用する。

I believe that the only thing certain about the provenance of these texts is that they do not, indeed cannot, come from Drehēm for the very simple reason that they cover the years Šulgir 33 to 48 and that it is only in Šulgir 39 that the central cattle exchange was established a Drēhem. (Afo 19,p.90, note 1)。

^dSul-gi-sí-mi-tiとは、「lukur ki-āg lugal」（460 OIM:A5991）、即ち「Šulgi's priestly wife シュルギ王の聖妃」（Kang 1972）である。また、「Wife and queen (nin) of king SHULGI of the Ur III dynasty. Her economic activities are documented in the Drehem archives and show her influence at court」（Leick 1999:p.153）と解説される。広範な支配地域から家畜や産物などを持参させ、諸神殿に供給する役割を担った重要な聖妃である。この文書には、施設建設・組織確立のポイントとなる「Š39年」を挟んで、「Š29～49年」のものがある。なお、次のアマルシン王の時代には、代わって聖妃A-bí-sí-mi-tiが登場する。

Š39年以前の^dSul-gi-sí-mi-ti文書例を示す。これは、Am-za-ku-um（人名）による家畜3種66匹の持参と、ベリタブ（人名）がそれを受理したことを示す文書である。「アンシャンが破壊された年」（Š34年）の「アン祭の月」（11月）。

22 OIM A5564

O.1) 6 gu, niga

穀類飼育牛6頭

2) 38 udu ú	草飼育羊38頭
3) 22 máš gal	成熟山羊22頭
4) Am-za-ku-um	Am-za-ku-um (人名) が
5) mu-DU	持参
R. 6) ^d Šul-gi-sí- / im-tum	Šul-gi-sí-mi-ti (のための)
7) Be-lí-DÛG ì-dab _s	Be-lí-tab (人名) が受理した
8) iti ezem An-na	アン祭の月 (11月)
9) mu An-ša-an ^{ki} / ba-ḥul	アンシャンが破壊された年 (Š34年)

Šul-gi-sí-mi-ti文書の特徴は、「Š39年」以前のものが多く、lugal文書も同様。「Š26年」例(後記)もある。両文書をドレヘム文書一般に含めると、「Š39年」以前に何らかの「旧施設(組織)」の存在も認める結果になる。本稿では、諸状況を加味し、「Š26年」頃には旧施設(組織)が存在し、「Š39年に新施設(組織)」に大規模再編されたと理解しておく。この点に関し、専門家の明快な見解が必要である。諸研究を概観すると、「Š39年」以前に、家畜類を含めた「一般的な品目を扱う旧集配施設(組織)」の存在を認める見解が、暗黙のようである。最新の研究(Hilgert 1998)でも、Šul-gi-sí-mi-ti文書とlugal文書を、ドレヘム文書一般に含みこんでいる。事実の検証は将来の発掘調査に委ねられる。

lugal文書⇒

^dŠul-gi-sí-mi-ti文書⇒

持参家畜文書⇒

Š26年以前? 旧 組 織 ⇒ Š39年 ⇒ 新 組 織

lugal文書 (Š26年)

3つのコレクション中では、「Š26年」のlugal文書(OIM:A4587)が最古である。これは、^dBa-ú-ib-gu-ulが、王のための持参をニプールのé saġ-da-na(地名)へ配送すべく、Na-ra-am-i-liから受理したもの。それ以前、即ち「シュルギ王の前半期(Š1~25年)」に遡る文書は、本稿では未確認である。その有無の確定には、全粘土板の検索が必要。一応、シュルギ時代文書に焦点を当てた最新研究(Hilgert 1998)には、Š26年以前の文書例は示されていない。本稿では、Š26年をドレヘム文書登場の「目安年」(註 それ以前の可能性もある。例えば、五味1977の註(26)は、Š15年文書の可能性を指摘)とみておく。

Š26頃に旧施設・Š39年に新施設

Š1年~25年 (D文書登場?) ⇒ Š26年~48年 ⇒ (D文書の時代) ⇒ 継続

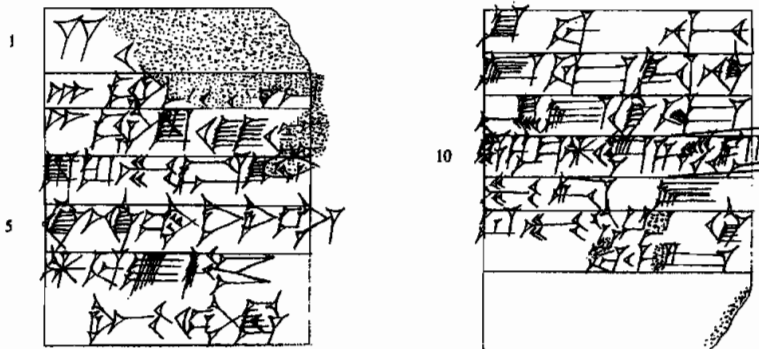
シュルギ王の前半期

シュルギ王の後半期

第6図 (1 OIM:A4587 Hilgert 1998)

0.1) 2×60+10 [+ x]	2×60+10 + ?
2) 3 gú síki 「x x」-kam 「ús?」	3×約30kg ? 等級のウール
3) 2 gú síki ġi _s (erasure: ġi _s)	2×約30kg 黒いウール

- 4) siki udu mu-DU lugal 羊のウール。王のための持参
 5) ki Na-ra-am-i-lí-ta Na-ra-am-i-lí (人名) から
 6) ʹBa-ú-ib- / gu-ul-e ʹBa-ú-ib- / gu-ul (人名) が
 R. 7) šu ba-ti 受理した
 8) é saġ-da-na é saġ-da-na (地名)
 9) Nibru^{ki}-ka ニブールの
 10) iti ezem ʹŠul-gi-ra シュルギ王のための祭の月 (7月)
 11) mu ús-sa の翌年 (Š26年)
 12) Si-mu-ru-um^{ki} / ba-ḫul シムルムが破壊された年
 13) -



主要組織と文書

諸研究 (Hilgert 1998・他) によれば、シュルギ王後半期の組織は「3主要部局+諸部局」で構成され、それぞれ関係文書が存在する。文書類の動向から、Š26年かそれ以前に王部局・聖妃部局が登場し、Š39年に中央部局 (Central Bureau) が登場したとみられる。

王部局	mu-DU ʹŠul-gi担当	lugal文書
聖妃部局	mu-DU ʹŠul-gi-sí-mi-ti担当	ʹŠul-gi-sí-mi-ti文書
中央部局	mu-DU 宛先無記担当	宛先無記文書
他部局	(略)	(略)

従って、持参物の受理から搬出に至る業務上の流れは、基本的には、「3本+a」となる。それぞれ、各時点で、「持参」・「受理1 (持参受付窓口)」・「移管」・「受理2 (組織内の移管に伴う受理)」・「搬出」・「集計」・「その他」など、各種文書が生み出される。文書類と部局の関係は、「宛先」や「受理者名」(後記) により判別する。なお、宛先無記の持参物等が、後日、王関係や聖妃関係の要所に支出される場合のような、流れの変更は想定される。

集計文書

集配施設・組織

各地⇒(持参)⇒持参・受理1・移管・受理2・搬出文書⇒(搬出)⇒要所

- A 流 (王関係) 各地⇒ (持参・宛先明記) ⇒ 集配組織 ⇒ (搬出) ⇒ 王関連要所
 B 流 (聖妃関係) 各地⇒ (持参・宛先明記) ⇒ 集配組織 ⇒ (搬出) ⇒ 聖妃関連要所
 C 流 (宛先無記) 各地⇒ (持参・宛先無記) ⇒ 集配組織 ⇒ (搬出) ⇒ 要所全般

王関係・聖妃関係の持参文書は、シュルギ王時代の後半を通して、「受理者明記」が原則。従って、歴代の受理者名が判明する(五味1975・前田1990a・Hilgert 1998・他)。ただし、Š39年直後から登場する持参家畜文書は「受理者無記」が原則なので、受理者は不明。Š47年以降は「受理者明記」が原則。受理者名は確認できる。なお、この組織の研究者は、Š39年に確立する家畜管理組織の中核を「Central Bureau中央部局」(例えば、Hilgert 1998)と呼び、前田は、核となる職務担当者を「貢納家畜管理官」と呼んでいる(1990a:p.436)。

各者の正確な在任期間の特定(全粘土板を総点検する作業が不可欠。年・月まで特定)は真の研究者に委ねるが、ここでは、3部局の主要な受理担当者の「在任日安年」を示す。王関係と中央部局の担当者が歴代1人なのに対し、聖妃関係は歴代7人を数える。王関係の受理者Naram-iliの22年という長期の在任(Š26~48年)は注目される。

A 王部局 (Šul-gi担当)

- ① ナラムイリ Naram-ili (Š26~48年)

B 聖妃部局 (Šul-gi-si-mi-ti担当)

- ① シュクブム Su-Kubum (Š29~31年)
 ② 不明 (Š31?~34?年)
 ③ ベリタブ Beli-tab = Beli-DUG (Š34~37年)
 ④ アピリア Apilia (Š38~41年)
 ⑤ アピルトウム Apilatam (Š42~45年)
 ⑥ ウル・ルーガル・エデナカ Ur-Lugal-edenaka (Š45~47年)
 ⑦ シュルギ・イリ Šulgi-ili (Š47年)

C 中央部局 (その他担当)

- 不明 (Š39~46年)
 ○ ナシャ Na-sa (Š47~48年)

暦年名と月名

「暦年名」は、「mu ús-sa Si-mu-ru-um^{ki} ba-ḫul シムルムが破壊された年の翌年 (Š26年)」のように、その年に発生した重要な出来事で表記する。西暦への換算には、ウル第三王朝 = B.C.2112~2004説 と = B.C.2047~1940説 (Kuhrt 1995:p.63) がある。

本稿で関係する「Š39年」前後の暦年名と英訳を、M.Sigrist and P.Damerow (2000) から転載する(第1表)。Š44~48年には、「min-month date formula (min-calendar)」(Hilgert 1998:p.9 and p.12) と呼ばれる特異現象が生じたようだが、理解が不十分なので留意するにとどめる。

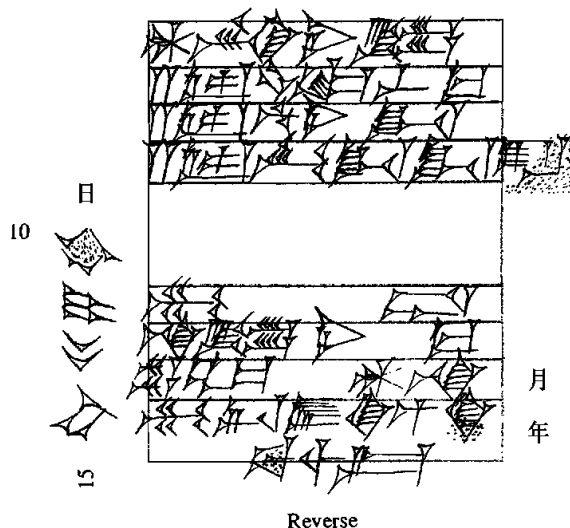
「月名」も、数字でなく、「iti ezem An-na アン祭の月 (11月)」や「iti mašdà-gu₇ ガーゼルを食す (祭) の月 (1月)」など、季節行事・年中行事などで表記する。ただし、主要都市により暦年・月名は異なることもあり、注意

37*	mu us2-sa {d}nanna kar-zi-da(ki) a-ra2 2-kam e2-a-na ba-an-ku4	Year after the year Nanna of Karzida was for the second time brought into his temple	
37a	mu {d}nanna u3 {d}szul-gi lugal-e bad3 ma-da mu-du3	Year Nanna and Szulgi the king built the wall of the land	(YBC 476)
37b	mu bad3 ma-da ba-du3	Year the wall of the land was built	
38	mu us2-sa bad3 ma-da ba-du3	Year after the year the wall of the land was built	(RIA 2 137 57)
39*	mu us2-sa bad3 ma-da ba-du3 mu us2-sa-bi	Second year after the year the wall of the land was built	(RIA 2 137 59)
39	mu {d}szul-gi lugal ur2i(ki)-ma-ke4 lugal an ub-da 4-ba-ke4 e2-puzur4-isz-(d)da-gan(ki) e2-(d)szul-gi-ra mu-du3	Year Szulgi the king of Ur, king of the four quarters, built the temple of Puzrisz-Dagan / the temple of Szulgi	(BM 23420, 28018)
40	mu us2-sa e2-puzur4-isz-(d)da-gan(ki) ba-du3-a	Year after the year in which the temple of Puzrisz-Dagan was built	
41	mu us2-sa e2-puzur4-isz-(d)da-gan(ki) ba-du3-a mu us2-sa-a-bi	Second year after the year in which the temple of Puzrisz-Dagan was built	(RIA 2 137 60)
42*	mu us2-sa e2-puzur4-isz-(d)da-gan(ki) ba-du3-a mu us2-sa-a-ba mu us2-sa-a-bi	Third year after the year in which the temple of Puzrisz-Dagan was built	
42	mu lugal-e sza-asz-ru-um(ki) mu-hul	Year (Szulgi) the king destroyed Szaszrum	(RIA 2 137 61)
43*	mu us2-sa sza-asz-ru-um(ki) ba-hul	Year after the year Szaszrum was destroyed	
43	mu en-ubur-zi-an-na en-(d)nanna masz-e / masz2-e i3-pad3	Year Enuburzianna was chosen as en-priestess of Nanna by means of the omens	(RIA 2 137 62)
44*	mu us2-sa en-(d)nanna masz-e / masz2-e i3-pad3	Year after the year (Enuburzianna) the en-priestess of Nanna was chosen by means of the omens	(RIA 2 137 62)
44	mu si-mu-ru-um(ki) u3 lu-lu-bu-um(ki) / lu-lu-bum2(ki) a-ra2 10-la2-1-kam-asz ba-hul	Year Simurrum and Lullubum were destroyed for the ninth time	(RIA 2 142 63)
45*	mu us2-sa si-mu-ru-um(ki) u3 lu-lu-bu-um(ki) a-ra2 9-kam-asz ba-hul	Year after the year Simurrum and Lullubum were destroyed for the ninth time	
45a	mu {d}szul-gi nita kalag-ga lugal ur2i(ki)-ma lugal an ub-da limmu2-ba-ke4 ur-bi2-lum(ki) / ar-bi2-lum(ki) si-mu-ru-um(ki) lu-lu-bu(ki) u3 kara2-har(ki) l-sze3 / asz-sze3 sag-du-bi szu-bur2-a bi2-ra-a / im-mi-ra	Year in which Szulgi the strong man, the king of Ur, the king of the four quarters, smashed the heads of Urbilum, Simurrum, Lullubum and Karhar in a single campaign	(RIA 2 142 64)
45b	mu si-mu-ru-um(ki) lu-lu-bu(ki) a-ra2 9-kam ba-hul	Year Simurrum and Lullubum were destroyed for the ninth time	
46*	mu us2-sa ur-bi2-lum(ki) ba-hul	Year after the year Urbilum was destroyed	
46	mu {d}szul-gi nita kalag-ga lugal ur2i(ki)-ma lugal an ub-da limmu2-ba-ke4 ki-masz(ki) hu-ur5-ti(ki) u3 ma-da-bi u4 l-a mu-hul	Year Szulgi the strong man, the king of Ur, the king of the four quarters, destroyed Kimasz, Hurti and their territories in a single day	(RIA 2 143 65)

第1表 ウル第3王朝暦年名 (S337-46をSigris and Damerow 2000から抜粋・複写)

が必要。同名でも、別の月を指す場合もある。閏年・閏月にも注意が必要。「暦年体系」は、五味氏による解説(1977・1978)を参照すべし。下に、「プズリッシュダガン (P.D.) 暦」の月名を示す。なお、「日」は、通例、楔形数字により表記される。第7図は「Š47年10月25日」を記す (Hirgert 1998)。

- 1 月iti maš-dà-gu₇
- 2 月iti šeš-da-gu₇
- 3 月iti u₅-bí-gu₇
- 4 月iti ki-siki ^dNin-a-zu
- 5 月iti ezem ^dNin-a-zu
- 6 月iti á-ki-ti
- 7 月iti ezem ^dŠul-gi
- 8 月iti šu-eš₅-sa
- 9 月iti ezem maḥ
- 10 月iti ezem an-na
- 11 月iti ezem Me-ki-ḡál
- 12 月iti še-KIN-ku₅
- 閏12 月iti diri se-KIN-ku₅



第7図 年・月・日の記入例 (263 OIMA4795裏面)

文書の類型 (Kang 1975)

何万点を数えるドレヘム文書類は、「大別・細別」が可能である。ここでは、Kang (1975) によるイリノイ大学蔵文書200点に関する大別・細別例を紹介する。

- I Delivery Texts (mú-tum) 註 mu-túm = mu-DU
 - Type 1 animals /PN/ - /mu-túm
 - Type 2 animals /mu-túm lugal/ - /ki PN1-ta/PN2/i-díb
 - Type 3 animals /PN1/mu-túm Šulgi-simti/PN2 i-díb
 - Type 4 a) animals (for DN) mu-túm (dignitaries) /maškim/ - /animal/destination/zi-ga
 - Type 4 b) animals (delivered by PN) /mu-túm/ki PN1-ta/PN2/i-díb
- II Receival or Trasferral Texts (i-dib)
 - Type I animals/ki PN1-ta/PN2/i-díb
 - Type II animals/destination/ki PN1-ta/PN2/i-díb
 - Type III a) animals/ki PN1-ta/zi-ga/ - /PN2/i-díb
 - Type III b) animals/destination/ba-zi/ - /ki-PN1-ta/PN2 i-díb
- III Receipt Texts for the Slaughtered Animals (šu-ba-ti)
 - Type I animals, (slaughtered) /ki PN1-ta/PN2/šu-ba-ti
- IV Receipt Texts with Seal Impression (kišib)
- V Disbursement Texts
 - zi-ga type 1) animals/mu-túm/maškim/ - /destination/zi-ga

- 2) animals/destination/zi-ga
 - 3) animals/destination/maškim/zi-ga/ki PN
 - 4) animals, destination/PN1 ì-dìb/ - /zi-ga/ki PN2
- ba-zi type
- 1) animals/destination/PN maškim/ki PN-ta/ba-zi
 - 2) animals/destination/ba-zi/ - /ki PN1-ta/PN2/ì-dìb
 - 3) animals/destination/PN1/šù-ba-ti/ki PN2-ta/ba-zi

VI Inventory and Balanced Account Texts

- a month
- a half-year
- a year
- several years
- a regnal span

VII Archive Label

VIII Miscellaneous Texts

持参者などの職名と持参物

文書中の「職名」を一部、抜粋する (Hilgert 1998・2003・他)。例えば、Nibru^{ki}・Umma^{ki}・ÚR×Ú^{ki}・Šuruppak^{ki}・Mar-da^{ki}・Adab^{ki}・Gu-du^a₈^{ki}・Ĝir-su^{ki}・A.ĤA^{ki}・Ka-zal-lu^{ki} の énsi エンシ (provincial governor 都市支配者・行政長官)、マリの支配者 (lú Mari^{ki})、シャブラ šabra (高位の神官) など、様々な高位・高官が「持参者」(実際の運搬業務の担当者は別人であろう) として登場する。

lu Mari^{ki} (governor of Mari)・šabra (high-ranking priest)・saġġa (chief administrator of a temple)・gúda (a title of a priest or priestly official)・en (priestesses・priest)・nar (temple musician)・maškim (requisitioner)・ka-gur₇ (granary superintendent)・nu-bànda (overseer)・sipa (shepherd)・sukkal (messenger)・mar-tu (Amorite, foreign dignitarie)・kuš₇ (chief herdsman)・šà-kà-na-kum (military governor)・àga-ús (soldier)・érin (troop of soldiers)・sa-gi (steward)・zabar-zab₅ (title of the highest cultic official)・その他、略。

ついでに、家畜類や産物などの単語 (一部) も列挙する。

áb (cow)・am (wild bull)・anše (donkey)・az (bear)・dara₁ (wild goat・ibex)・dùr (foal)・gu₁ (ox)・gukkal (fat-tailed sheep)・kir₁₁ (female lamb)・^{anše}kúnga (an onager-donky hybrid)・lulim (stag)・máš (buck)・máš (goat)・maš-dà (gazelle)・sila₁ (male lamb)・šeg₇-bar (wild sheep)・šah (pig)・u₈ (ewe)・ud₅ (nanny goat)・udu (sheep)・ur (dog)・ur-mah (lion)・ùz (she-goat)・uz (bird)・他、略。

ad/ad₆/adda (carcass)・amar (young animal)・áslum₁ (hairy)・áb-kiri (young calf)・áb Mar-tu si-a (red-brown cow of a Martu breed)・a-šà-se (for the fields)・^{muus}áš-gàr (female kid)・babbar (white)・bar-ġál (unplucked sheep)・é-ba-an (pair)・gal (large, full grown)・gir_x (native)・ġiš-dù (breeder)・gùn (spotted)・KU₃ (KUg) (clean, pure)・kun gid (long tailed)・NI (fattened)・niga (grain-fed)・níġ (something)・níġ-ba (gift)・nita (male animal)・péš (large mouse)・ri-ri-ga (dead of natural causes)・saġ (head)・sig₅ (fine)・sig₅-ús (second

grade) · sig₁₇ (yellow) · su₁ (brown, red) · šeĝ₆ (roast meat) · ú (grass-fed) · ur-gi₇ (special dog) · ur-ra (dog) ·
ù-tu-da (new born) · ga (milk) · kuš (leather) · sa (sinew) · siki (wool) · 略

gi (reed) · giš (wood) · i (oil) · ì-giš (vegetable oil) · ku₆ (fish) · kaš (beer) · kuš (skin) · nindá (bread) ·
sa-gi (reed bundles) · siki (wool) · še (grain · barley) · 略

文書例の解説 (第8図)

シンプルな文書例をあげ、「処理上の流れ」を図示すると共に、簡単に解説を行う。訳語は必要な個所のみ。また、別の文書に登場する「同一人物」を特定する練習も試みる。

持参文書 (宛先無記・受理者無記)

「mu-túm (mu-DU) 持参」とだけ記され、「宛先無記」・「受理者無記」の文書である。この類型は、「It records just number and kind of animals received and the person who brought them, disregarding the names of the officials who received them」(Kang1975:p.239)の特徴がある。大多数は「Š43~47年」。各行の記載項目を記す。

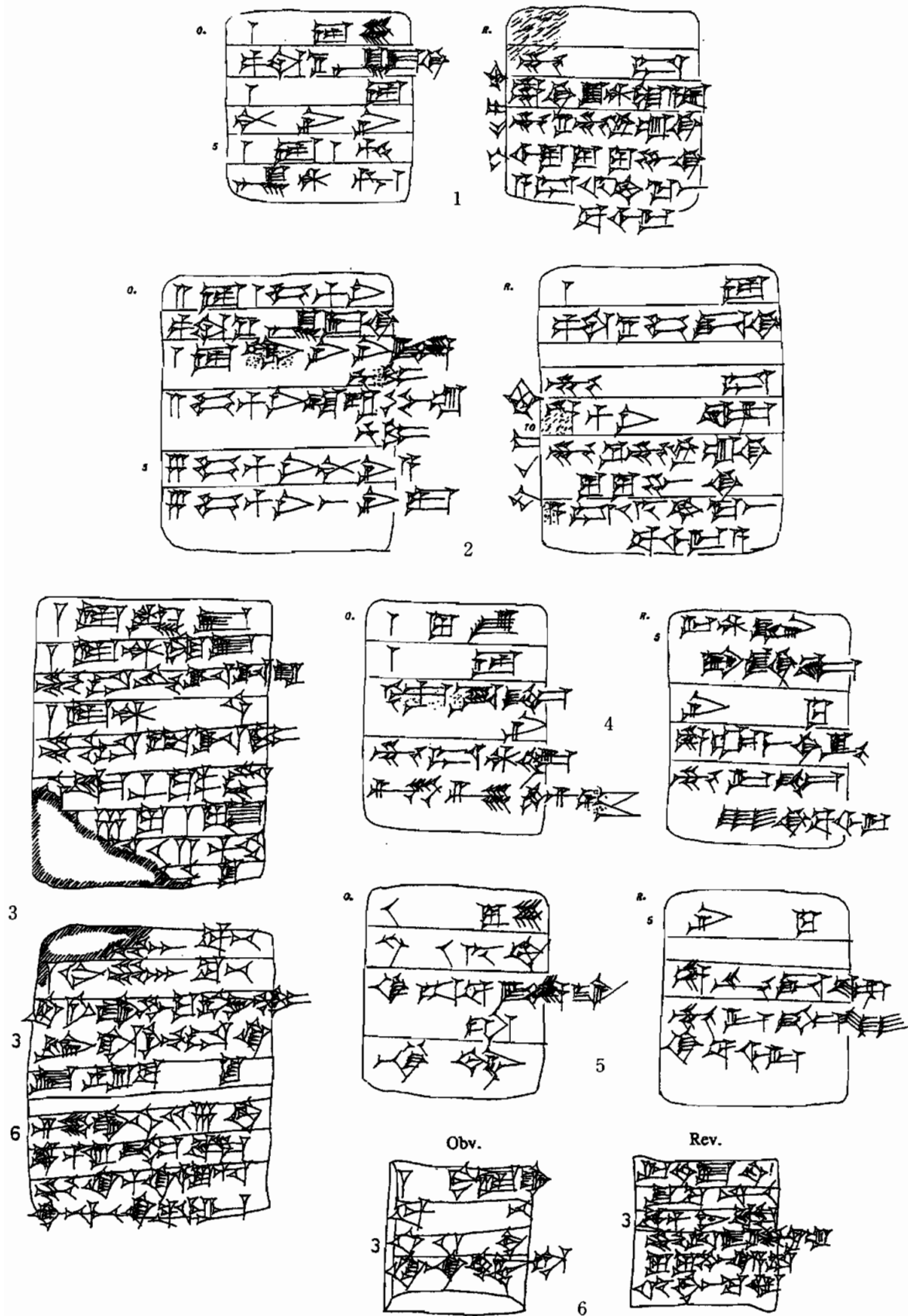
各地⇒(持参)⇒受理者?⇒?⇒宛先?

(第8図1) SETDA 3

O. 1) 1 síla-niga ₁	【数・種類】
2) ensí Nibru ^{ki}	【持参者 A 1 = 職名】
3) 1 síla	【数・種類】
4) Ḫal-lí-lí	【持参者 A 2 = 人名】
5) 1 síla 1 máš	【数・種類・数・種類】
6) en ^d Inanna	【持参者 A 3 = 職名】
R. 7) -	-
8) mu-túm	【持参(業務)】
9) iti ki-síg ^d Nin-a-zu	【月名】
10) mu Si-mu-ru-um ^{ki} / ù Lu-lu-bu ^{ki} / a-rá 9-kam-ma-aš / ba-ḫul	【暦年名】
L.E. u ₄ 24-kam	【日(番目)】

簡単に解説する。まず「家畜類の数・種類」、次に「持参者」が記される。持参者は3名(A1~3)。人物表記には、「人名だけ」・「人名と職名」・「職名だけ」の3パターンがある。

持参者(運搬者は別人で、実際は貢納者であろう)のA1は、ニプールのエンシ(都市支配者・行政長官)で、人名の記載はない。持参は大麥飼育子羊1頭。同じくA2は、Hal-lí-lí(人名)だけで、身分の記載はない。持参は子羊1頭。そしてA3は、イナンナ神のエン(最高神職)と記されるだけで、人名の記載はない。持参は子羊1頭と子ヤギ1頭である。



第8図 ドレヘム文書例 (SETDA・広瀬コレクションより抜粋)

次に「空欄」がみられる。通例、業務が「mu-túm (mu-DU) 持参」の場合、上が空欄。「i-dab₅受理した」の場合、下が空欄。次に、業務日が記される。

itiは「月」。iti ki-síg⁴ Nin-a-zu (ニナズ神を悲嘆する月 The month of the lamentation of the Goddess Ninazu) は「4月」に該当。muは「年」。mu Si-mu-ru-um^{ki} ù Lu-lu-bu^{ki} a-rá 9 kam-ma-aš ba-ḫul (シムルムとルルブムが9度目の破壊された年 The year when the cities Simurum and Lulubu were destroyed for the 9th time) は、「Š42年」に該当する。同年、シムルムとルルブムが9度目の破壊を受けたようである。その年の重大事件を記す暦年名の存在は、歴史復元には極めて有効な情報源となる。U₁は「日」、kamは「番目」。粘土板側面のu₁ 24-kamは「24日」。業務上の都合か、「日」は粘土板の側面に記される。

次の例は、6人の持参。同じく宛先無記・受理者無記である。Š44年1月12日。

(第8図2) SETDA 1

O. 1) 2 síla 1 amar-mašda ₃	子羊2頭 若ガゼル1頭
2) ensí Nibru ^{ki}	ニップルのエンシ (都市支配者)
3) 1 síla Giri-ni-i-ša / nu bānda	子羊1頭 ギリニシャ / ヌバンダ (大隊長)
4) 2 amar-mašda La-ra-bu-um / nu-banda	若ガゼル2頭 ララブム / ヌバンダ
5) 5 amar-mašda Ḫal-lí-a	若ガゼル5頭 / ハリア
6) 5 amar-mašda Aša _r -ni-u ₁	若ガゼル5頭 / アサニウ
R. 1) 1 síla	子羊1頭
2) ensí AMAR.DA.KI	マラダのエンシ (都市支配者)
3) -	(空白)
4) mu-túm	持参
5) iti mašda-kú	ガゼルを食す月 (1月)
6) mu Si-mu-ru-um ^{ki} / Lu-lu-bu ^{ki}	シムルムとルルブムが
7) a-rá 9-kam-ma-aš / ba-ḫul-a	9度目破壊された年 (Š44)
L.E. u ₁ 12-kam	第12日

持参文書 (結婚贈り物?)

各所⇒ (結婚贈り物?・持参) ⇒ 受理者?⇒? ⇒宛先?

特殊な持参例もある。何千頭という極めて異常な数の家畜類と共に、「nig-mussa結婚贈り物?」と記された文書である。私のような初心者には、この用語は不明だが、「nig-mí-ús-sá」=「wedding gift (thing + woman + to come near to + to equal in value)」(Hallowan1999) に該当するものと考えておく。

190 OIM:A4648

O. 1) 180 gu ₁ niga	穀類飼育雄牛180頭
2) 50 gu ₁ gūn-a	斑点雄牛50頭
3) 3 gu ₁ babbar	白雄牛3頭
4) 191 gu ₁	雄牛191頭

5) 54 gu ₄ mu-2	二才雄牛54頭
6) 27 áb gùn-a	斑点雌牛27頭
7) 35 áb	雌牛35頭
8) 60 áb mu-2 gùn-a	2才斑点雌牛60頭
9) 60-lá-1 áb mu-2	2才雌牛59頭
10) 20 ^{ansc} kunga nita	雄野生口バ20頭
11) 30 ^{ansc} kunga munus	雌野生口バ30頭
12) 3960 udu	羊3960頭
13) 2580 máš	山羊2580頭
R.14) 660 ud ₅	雌羊660頭
15) níġ-mussa Ri-ġa-ni	結婚贈り物? Ri-ġa-ni (人名)
16) 3 gu ₄ A-ù-da-il / mar-tu	(以下訳略)
17) 2 gu ₄ 4 udu aslum _r (A.LUM)	
18) 5 udu 10 máš gal	
19) Ĥa-aš-ma-nu-um mar-tu	
20) 1 sila ₄ A-bu-da-a nu-bànda	
21) 1 gu ₄ 6 udu 4 máš gal	
22) 1 máš Tu-da-ri nu-bànda	
23) 4 udu niga 1 sila ₄ énsi Ka-zal-lu ^{ki}	
24) 1 sila ₄ <u>Ad-da-tur</u> ★ 1	【別文書に同名者】(後出 259 OIM: A4826・広瀬51参照)
25) 1 sila ₄ Ar-ši-aḫ	
26) 4 lulim níta 2 lulim munus	
27) Árad ġu ₁₀	
28) mu-DU iti-šu-eš ₅ -ša	持参 シュエシャ (祭) の月 (8月)
29) mu Ki-maš ^{ki} Ĥu-ur ₅ -ti ^{ki} ba-ḫul	キマシュとフルティが破壊された年 (Š46)
L.E. u ₄ 22-kam	第22日

持参文書 (西方朝貢国地域 マリ)

A-da-tum マリの支配者⇒ (持参) ⇒ 受理者?⇒? ⇒宛先?

ユーフラテス河の上流、かの「マリ」からの持参例である。マリは、第Ⅲ王朝の「西方朝貢国地域」(前田2004)に位置する。持参者は、lú Ma-ri (マリの支配者) のA-da-tumとDu-uk-raの妻 (dam) である。受理者無記。Š45年10月6日。

179 OIM:A3188

O.1) 1 gu ₄ niga	穀類飼育雄牛1匹
2) 10-lá-1 udu 1 máš	羊9匹・山羊1匹
3) A-da-tum / lú Ma-ri ^{ki}	アダトゥム / マリの支配者

4) 1 sila ₄	羊 1 匹
R. 5) dam Du-uk-ra	ドゥクラの妻
6) -	
7) mu-DU iti ezem an-na	持参 アナ祭の月
8) mu ^d Šul-gi lugal / Ur-bi-lum / ^{ki} Si-mu-ru-um ^{ki} Kár- / ḥar ^{ki} AŠ-še SAG×DU (KWU434)-bi šu- / búr a bí ra-a	(Š45)
L.E. U ₄ 6-kam	6 日

持参文書 (受理者明記)

「宛先無記」だが、「mu-DU持参」に加え、「受理者」と「i-dub_s 受理した」が明記される文書である。Š47～48年ごろに、「受理者無記」から「受理者明記」に転換する (王・聖妃文書は以前から「受理者」・「i-dub_s」を明記)。

次の例は、saġġa職 (神殿管理者) であるŠes-Daの息子のUr-^dEN.ZUと、Ad-da-turと、Ad-da-kal-laという3人の持参で、Na-saが受理した。Na-saは、持参家畜の受理・支出を担当する「貢納家畜管理官」(前田1990a)である。彼を中心とする組織は、集配施設の「中央部局」(Hilgert1998)とされる。Š47年7月28日。★印は後述する。

3人⇒(持参)⇒受理者Na-sa⇒?⇒宛先?

259 OIM: A4826

- O. 1) 2 sila₄
- 2) Ur-^dEN.ZU ★ 3 (後出291MIO:A3347を参照)
/ dumu Šes-Da-da saġġa ★ 4
- 3) 1 sila₄
- 4) Ad-da-tur ★ 1 (後出259OIM:A4826を参照)
- 5) 1 ^{munus}áš-gār niga
- R. 6) Ad-da-kal-la ★ 2 (後出291MIO:A3347を参照)
- 7) -
- 8) mu-DU 持参
- 9) Na-sa₆ i-dab_s ナシャが受理した
- 10) iti ezem ^dŠul-gi
- 11) mu ús-sa Ki-mas^{ki} / ba-ḥul
- L.E. u₄ 28-kam

持参文書 (su-gid税)

次の例は、家畜管理官のNa-saが、sagi (財産管理職) のLú-kal-laから、「šū-gid税」と明記された持参を受理した文書である。šū-gidとは、「dues:general obligation」(Halloran1999)と英訳される税である。Š46年7月。

Lu-kal-la 財産管理職⇒(持参・税)⇒Na-sa⇒?⇒宛先?

256 OIM:A4399

- | | |
|---|--------------------------|
| O. 1) 8 gu ₄ | 雄牛 8 頭 |
| 2) 6 áb | 雌牛 6 頭 |
| 3) šu-gíd | šu-gíd税 |
| 4) ki Lú-kal-la / sagi | ルカラ (人名) sagi (財産管理職) から |
| R. 5) mu-DU | 持参 |
| 6) Na-sa ₆ ì- / dab ₆ | ナシャが受理した |
| 7) iti ezem ^d Šul-gi | シュルギ祭の月 (7月) |
| 8) mu Ki-maš ^{ki} ù / | キマシュと |
| Ĥu-ur ₅ -ti ^{ki} / ba-ĥul | フルティが破壊された年 (Š46) |

持参文書 (bala義務)

アダブのエンシ (都市支配者) から、「bala」と記された家畜や肉類を、ナシャが受理したもの。ba-laとは「rotating service obligations; period of rotating service obligations」(Hilgert2003;p389)。諸都市のエンシに対し、強制的に課せられた持ち回り義務である。

The central administration established a system of taxation that collected a substantial part of the provinces' resources. This system was given the Sumerian name bala, which basically meant "exchange" (Mieroop 2004:p.73).

280 OIM:A3111

- | | |
|--|---|
| O. 1) [x +]l udu niga | 穀類飼育の羊 ? 頭 |
| 2) mu mu-du-lum / ù uzu ĥád-šè | 肉料理用と乾肉用生肉 |
| 3) bala Ĥa-ba-lu ₅ -gé / énsi Adab ^{ki} | バル義務 Ĥa-ba-lu ₅ -ge (人名) アダブのエンシ |
| 4) mu-DU | 持参 |
| R. 5) Na-sa ₆ | ナシャが |
| 6) ì-dab ₆ | 受理した |
| 7) - | |
| 8) iti ezem ^d Nin-a-zu | ニナズ祭の月 (5月) |
| 9) mu ús-sa Ki-maš ^{ki} / ù Ĥu-ur ₅ -ti ^{ki} / ba-ĥul | キマシュとフルティが破壊された年の翌年 (S47) |

各種の税に関する分析を詳細に進めた前田 (1994・2003) によれば、主に中心地域の20都市 (3都市は周辺地域) のensi (都市支配者・行政長官) に「bal義務」が課され、首都ウル・聖都ニップル・古都ウルクのエンシは除外されていた。時代的には、「Š39年」以前のバル義務は、ウンマとカザルの2都市 (Maeda1994:p.118) だけで、他の都市は後に追加されたという。プズリシュダガンにおける家畜集配組織の確立 (Š39年) 後、Š42年頃から、バル義務による家畜の持参が急増する。

Adab・Agade・Apiak・Babili・Girsu・Gudua・HA.A・Isin・Kazallu・Kish・Marada・Push・Sippar・

持参文書 (šu-gíd税・輸送責任者)

kuš₇ (牧夫頭) のA-da-lal (人名) がgiri (輸送責任者) を担当した。zabar-dab₅は、「人名」とみる場合 (広瀬 No.34) と、「職名」と見る場合 (OIM:4985) がある。後者は、アッカド語の「zabardabbu」(bronze (-bowl) holder) を意味する職名 (Black他2000:p.434)。su-gid (税) と記された宛先無記の持参で、Na-saが受理した。Š47年1月。

zabar-dab⇒輸送責任者 (税・持参) ⇒Na-sa⇒?⇒宛先?

272 OIM:A4985

- | | |
|---|---|
| O. 1) 86 ud ₅ | 雌羊86頭 |
| 2) 3 máš níta | 雄山羊3頭 |
| 3) šu-gíd udu Iri-saḡ- / rig ₇ ^{ki} | šu-gid税 Iri-saḡ- rig ₇ (地名) の羊 |
| 4) ḡiri A-da-lál / kuš ₇ | 輸送責任者A-da-lál (人名) 牧夫頭 |
| R. 5) ki zabar-dab ₅ -ta | zabar-dab ₅ (職名・人名) から |
| 6) mu-DU | 持参 |
| 7) Na-sa ₆ i-dab ₅ | Na-sa ₆ が受理した |
| 8) - | |
| 9) iti maš-dà-gu ₇ | ガーゼルを食す月 (1月) |
| 10) mu ús-sa Ki-maš ^{ki} / ba-ḥul | キマシュが破壊された年の翌年 (Š47) |

別文書にみる同一人物

先の190 OIM:A4648に、「Ad-da-tur」(★1) が登場したが、偶然、259 OIM:A4826にも「Ad-da-tur」が登場した(★1)。年代も近い (Š47年と48年) が、それだけでは同一人物かは未確定。そこで、更に別の文書で「同一人物」を探す。次の文書には、Ad-da-tur (★1) を欠くが、Ur-^dEN.ZU (★3) とAd-da-kal-la (★2) が登場する。両人がセットで登場するので、これは「同一人物」と確定できる。

291 MIO:A3347は、12人の持参で、Na-saが、Š48年9月17日に受理。同文書では、Ur-^dEN.ZU (★3) の父=Ses-Da-da (★4) も見出せる。

291 OIM:A3347

- | | |
|---|---------------------------------|
| O. 1) 2 sila ₁ Na-ra-am-i-lí (A 1) | |
| 2) 2 udu niga 1 sila ₁ | |
| 3) Nir-i-da-ḡál (A 2) | |
| 4) 2 udu niga 1 sila ₁ | |
| 5) énsi Šuruppak ^{ki} (A 3) | |
| 6) 2 sila ₁ Šeš-Da-da saḡḡa (A 4) ★4 | Ur- ^d EN-ZUの父 (サンガ職) |

- 7) 2 sila₄ ensi Nibru^{ki} (A 5)
 8) 2 udu niga 1 sila₄
 9) Ur-ni₇-ġar ka-gur₇ (A 6)
 10) 2 udu niga 2 sila₄
 11) Ur-^dEN-ZU dumu Šeš-Da- / da saġġa (A 7) ★ 3 Šeš-Da-daの息子
 12) 1 sila₄ Ĥal-lí-lí (A 8)
 13) 2 sila₄ Ad-da-kal-la (A 9) ★ 2
 R.14) 2 udu niga 1 sila₄
 15) Ur-^dEn-lí-lá (A10)
 16) 2 udu niga 1 sila₄
 17) Lú-sa₆-ga šabra / ^dNin-urta (A11)
 18) 1 máš É-a-ì-lí (A12)
 19) -
 20) mu-DU Na-sa₆ ì-dab₅
 21) iti ezem maġ
 22) mu Ĥa-ar-š^{ki} / Ki-maš^{ki} ba-ġul
 L.E. 23) u₄ 17-kam

更に、別のコレクションでも、「同一人物」を見出せるか。例えば、広瀬No51 (Š46年3月26日) では、Ur-^dEN.ZUの父Šeš-da-da (★4) とAd-da-tur (★1) が登場する。関係部分を示す。

(第8図3) 広瀬51

- O.1) 1 sila₄ ^dEn-líl
 2) 1 sila₄ ^dNin-líl
 3) mu-DU Šeš-da-da sanga★4
 4) 1 sila₄ ^dUtu
 5) mu-DU Ad-da-tur★1
 6～8) (省略)

更に、別コレクションにも、「同一人物」を見出せるか。イリノイ大学のSETDA (Kang1972) でも、Šeš-da-da (★4) は2・5・131 (文書略) に、息子のUr-^dEN-ZU (★3) は127・188に見出せる (文書は省略)。持参状況全体の復元には、世界各地のドレヘム文書 (数万点) を検討し、あらゆる情報を総合化する作業が不可欠である。当然ながら先学達は、従来からこうした研究を積み重ねてきている。

^dŠul-gi-sí-mi-ti文書

^dŠul-gi-sí-mi-ti文書は、通例、「受理者明記」である。下記の例は、Á-pil-liの妻 (dam) が持参。受理者は、Ur-^dLu-gal-edina-kaである。

Á-pil-liの妻⇒(持参)⇒Ur-^dLugal -edina-ka⇒?⇒^dSul-gi-sí-mi-ti

(第8図4) SETDA 59

- | | |
|---|--|
| O. 1) 1 udu-ú | 草飼育羊 1 頭 |
| 2) 1 síla | 羊 1 頭 |
| 3) dam Á-pil / -li | Á-pil-liの妻 |
| 4) mu-túm ^d Šul / gi-sí-mi-tum | ^d Šul-gi-sí-mi-ti (のための) 持参 |
| R. 5) Ur- ^d Lugal / -edina-ka | Ur- ^d Lugal -edina-kaが |
| 6) i-díb | 受理した |
| 7) iti ezen-Me-ki-gál | Me-ki-gál祭の月 (11月) |
| 8) mu Ur-bí / -lum ^{ki} ba-ḥul | Ur-bi-lumが破壊された年 (Š45年) |

次例の持参者も女性、Da-ni-aの姉妹 (nin₉) である。受理者は三代目のBe-lí-DUGで、kurušda (家畜飼育官) と特記されている。搬送時点まで、家畜が施設内で保管・飼育されたのであろう。Š37年なので、「旧施設」の文書である。

Da-ni-aの姉妹⇒(持参)⇒Be-li-DUG (家畜飼育官) ⇒?⇒^dŠul-gi-sí-mi-ti

25 OIM: A3041

- | | |
|--|---------------------|
| O. 1) 1 gu ₁ niga | 穀類飼育の雄牛 1 頭 |
| 2) 1 gu ₁ ú | 雄牛 1 頭と |
| 3) 6 udu niga | 穀類飼育の羊 6 頭 |
| 4) 2 udu gu ₁ -e ús-sa | 牛先導羊 2 頭 |
| 5) 8 udu ú | 羊 8 頭と |
| 6) 4 máš gal | 雄若羊 4 頭 |
| R. 7) nin ₉ Dan-ni-a | Da-ni-aの姉妹 |
| 8) mu-DU | 持参 |
| 9) ^d Šul-gi-sí / -im-tum-ma | シュルギシムティのために |
| 10) Be-lí-DUG kurušda i-dab ₆ | 家畜飼育官Be-lí-DUGが受理した |
| 11) iti ezem ^d Nin-a zu | ニナズ祭の月 (5月) |
| 12) mu bàd ma-da / ba-dù-a | 領域の城壁が築かれた年 (Š37) |

次に、Š39年以降の文書例を示す。Á-pi-li-aが、É-u-eから、雌の子山羊 1 頭を受理したもの。Š40年 2 月。^dŠul-gi-sí-im-tiの受理者は、Be-lí-DUGを含め、いずれもkurušda (家畜飼育官) とみられる (五味1975)。

E-u₆-e⇒(持参)⇒Á-pi-li-a (家畜飼育官) ⇒?⇒^dŠul-gi-sí-mi-ti

43 OIM:A4188

- | | |
|---------------------------------|----------|
| O. 1) 1 ^{nunus} áš-gar | 雌子山羊 1 頭 |
|---------------------------------|----------|

- | | |
|---|------------------------------|
| 2) É-u ₆ -e | É-u ₆ -e (人名) |
| 3) mu-DU | 持参 |
| 4) Šul-gi-sí- / im-ti | Šul-gi-sí- / im-ti (のために) |
| 5) Á-pi ₅ -lí-a / i-dab ₅ | Á-pi ₅ -lí-aが受理した |
| 6) iti šeš-da-gu ₇ | šešda (豚の一種) を食す (祭) の月 (2月) |
| 7) mu ús-sa é PÙ /
ŠA-iš- Da-gan ba-dù | ブズリッシュダガンの神殿が建てられた年の翌年 (Š40) |

移管文書 (施設内部)

この種の文書は、「人物Bから人物Cが受理した (i-dib・i-dab₅)」という文言が記される。SETDA9は、穀物飼育羊10頭を、Š45年2月9日に、Na-luがAb-ba-ša-gaからが受理したもの。Ab-ba-ša-gaは、後日、Na-saを継いで「家畜管理官」になる人物 (前田1990:p.450)。Na-luの役割は不明だが、持参の受理文書には登場せず、別の役割が予測できる。

各地⇒ (持参) ⇒ Ab-ba-ša-ga⇒Na-lu ⇒ ?

(第7図5) SETDA9

- | | |
|---------------------------------------|----------------------|
| O. 1) 10 udu niga ₆ | 穀類飼育羊10頭 |
| 2) u ₁ 9-kam | 第9日 |
| 3) ki Ab-ba-ša-ga / ta | Ab-ba-ša-gaから |
| 4) Na-lu ₅ | Na-lu ₅ が |
| R. 5) i-díb | 受理した |
| 6) - | |
| 7) iti šeš-da-kú | セシュダを食す (祭) の月 (2月) |
| 8) mu Ur-bí-lum / ^h ba-ḥul | ウルビルムが破壊された年 (Š45) |

移管文書 (死亡家畜)

死亡家畜の移管文書である。「ba-ug₇・ba-úš」はアッカド語の「mutanu(m)」に該当。「病死」などを意味する。死亡家畜には「i-dib・i-dab₅受理した」でなく、「šu ba-ti受理した」(hand was brought close to) が用いられる。次の文書は、施設内で、Na-luからUr-ni-garが死亡牛を受理したもの。Ur-ni-garは「死亡家畜担当者」である。Š45年1月11日。

各地⇒ (持参) ⇒ ?⇒Na-lu⇒Ur-ni-gar ⇒ ?

死亡家畜

(第8図6) 広瀬31

- | | |
|--------------------------------|-----|
| O. 1) 1 kiri ₁₁ -ga | 乳雌牛 |
|--------------------------------|-----|

2) ba-ug ₇	病死
3) u ₇ -l1-kam	第11日
4) ki Na-lu ₅ ta	Na-lu ₅ から
R. 5) Ur-ni ₉ -gar	Ur-ni ₉ -garが
6) šu ba-ti	(死亡家畜を) 受理した
7) iti maš-dà kú	ガーゼルを食す (祭) の月 (1月)
8) mu ús-sa Si-mu-ru-um / Lu-lu-bu ^k a-rá /	シムル (と) ルルブが
10 -lá-l-kam-aš ba-ḥul	9度目の破壊された次の年 (Š45)

受理文書 (施設内移管・閏月)

Ur-ni₉-garがNa-luから、死亡家畜 (羊1頭) を受理した文書。Š44年閏12月7日。1年=12月が原則だが、閏月もある。iti še-KIN-ku₅は「12月」。iti diri še-KIN-ku₅は「閏1月」。「diri」は「追加の」の意味。暦年に関しては、五味 (1977・1978) を参照のこと。

380 OIM:A2861

O. 1) 1 udu	羊1頭
2) ba-úš	死亡
3) u ₇ 7-kam	第7日
4) ki Na-lu ₅ -ta	ナルから
R. 5) Ur-ni ₉ -gar	ウルニガルが
6) šu-ba-ti	(死亡家畜を) 受理した
7) iti diri še-KIN-ku ₅	収穫 (祭) の次の月
8) mu Si-mu-ru ^{ki} /	シムル (と) ルルブが9度目の破壊された年 (Š44)
Lu-lu-bu ^{ki} a-rá 10-lá-l /	
kam-ma ba-ḥul	

移管文書 (王のための持参)

「王」とは、シュルギ王のこと。施設内部での移管文書である。Ši-lu-uš^d-Da-gan がNa-ra-am-i-liから受理したもの。両者とも組織内部の人物である。Š48年7月。この年をもって、3代目・シュルギ王の時代は終わり、4代目・アマルシン王の時代へと転換する。

各地⇒ (王のための持参) ⇒ Na-ra-am-i-li⇒Si-lu-us^d-Da-gan ⇒ 王

12 OIM:A5712

O. 1) 1 šeg ₉ -bar níta	野生雄羊1頭
2) 1 šeg ₉ -bar munus	野生雌羊1頭
3) mu-DU lugal	王 (のための) 持参

4) ki Na-ra-am-i-lí / ta	ナラムイリから
5) Ši-lu-uš ⁴ Da / gan	シルシュダガンが
R. 6) i-dab ₅	受理した
7) -	
8) iti šu-eš ₅ ša	シュエシャ (祭) の月
9) mu Ḫa-ar-ši ^{ki} / Ki-maš ^{ki} Ḫu-ur ₅ -ti ^{ki} / ù ma-da-bi / u ₄ AŠ-a ba-ḫul	ハラシ・キマシュ・フルティと その領土が1日で破壊された年 (Š48年)

その他の多様な類型がある。本稿では、紙幅の都合もあり、最も簡略な文書例を学習・紹介したにとどまる。次の機会を得て、より複雑な類型の学習に努める。

おわりに

以上、ウル第三王王朝・ドレヘム文書・家畜集配組織の初歩的な学習に努めた次第である。ついで、文書・図面・文章などを引用させていただいた先学に感謝します。また、「インターネットによるシュメールの初歩的学習」(2000年8月 第41回) と題し発表させていただいた小野山節・前川和也・前田徹先生他、シュメール研究会の諸先生に感謝します。更に、積年の研究による御著書を拝受したことにも、重ねて御礼申し上げます。最後に、「弥生研究」を看板とするわが酒井研究室から、シュメール語やアッカド語など楔形文字研究の「真の研究者」を目指し、筑波大学大学院へ巣立った二ノ宮崇司君の前途に大いに期待します。

【参考・引用文献】

- Adams, R.M., 1981, *Heartland of Cities, Surveys of Ancient Settlement and Land Use on the Central Floodplain of the Euphrates*, U. of Chicago Press.
- Black, J., A. George and N. Postgate 2000, *A Concise Dictionary of Akkadian*, Harrassowitz Verlag.
- Gomi, T., 1984, Ten cuneiform texts from some Japanese collections, 『江上波夫先生喜寿記念 古代オリエント論集』山川出版社
- Gomi, T., Hirose Y. and Hirose K., 1990, *Neo-Sumerian Administrative Texts of the Hirose Collection*, Capital Decisions Limited.
- Halloran, J., 1999, Sumerian Lexicon. (internet) .
- Hilgert, M., 1998, Cuneiform Texts from the Ur III Period in the Oriental Institute, Volume 1, *Administrative Documents from the Reign of Sulgi*, University of Chicago.
- 2003, Cuneiform Texts from the Ur III Period in the Oriental Institute, Volume 2, *Administrative Documents from the Reign of Amar-Suena*, University of Chicago.
- Kang, S., 1972, Sumerian and Akkadian Cuneiform Texts in the Collection of the World Heritage Museum of the University of Illinois, Volume I, *Sumerian Economic Texts from the Drehem Archive*, University of Illinois Press.
- Kuhrt, A., 1995, *The Ancient Near East c. 3000-330 B.C.*, Routledge.
- Labat, R., 1995, *Manuel d'Épigraphie Akkadienne*, Geuthner.
- Leick, G., 1999, *Who's who in the Ancient Near East*, Routledge.
- Maeda T., 1994 Bal-ensí in the Drehem Texts, *Acta Sumerologica* 16. The Middle Eastern Culture Center in Japan.
- Mieroop, M., 2004, *A History of the Ancient Near East ca. 3000-323 B.C.*, Blackwell.
- Sigrist, M. and P. Damerow, 2000, Mesopotamian Year Names. (internet)
- Steinkeller, P., 1987, The administrative and economic organization of the Ur III State: the core and periphery, *The Organization*

of Power: Aspects of Bureaucracy in the Ancient Near East. Biggs and Gibson eds, Chicago.

Thomsen, M-L., 1991, *The Sumerian Language*, Academic Press.

五味享 1975年 「mu-tù ṣul-gi-si-im-ti- 制度の官使について」『三笠宮殿下遷暦記念 オリエント学論集』講談社

1977年 「「閏月のある平年」：ドゥレーヘム暦の改定」『オリエント 20-2』

1977年 「ウルの暦とドゥレーヘムの暦との関係」『静岡女子大学研究紀要 第11号』静岡女子大学

酒井龍一 1990 『セトルメントアーケオロジ』ニュー・サイエンス社

杉勇・五味享 1978年 「シュメール」『筑摩世界文学大系 1 古代オリエント集』筑摩書房

前田徹 1990年a 「ウル第三王朝時代のブズリッシュ・ダガンにおける家畜管理組織」『日本オリエント学会創立三十五周年記念
オリエント学論集』力水書房

1990年b 「ウル第三王朝時代のGú-na ma-da」『オリエント33-1』

1996年 『都市国家の誕生』山川出版社

2003年 『メソポタミアの王・神・世界観』山川出版社

前田徹他 2000年 『歴史学の現代 古代オリエント』山川出版社

松島英子 2003年 「メソポタミアの神々と王の役割」『王権の誕生Ⅲ』角川書店

吉川守 1990 「TummalとKi-⁴Sin」『日本オリエント学会創立三十五周年記念 オリエント学論集』力水書房